

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の海洋科学に対する意欲や探究心を高める教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②実習や学校行事、生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①アクティブラーニングの視点を踏まえた授業(以下AL)の教員研修会の実施及び内容の充実を図る。</p> <p>②教育課程編成基準の変更を機に、学校設定科目を中心として専門教科科目の教育内容や単位数を精査する。</p>	<p>①全教科でアクティブラーニングを取り入れた公開授業を実施するとともに、公開授業終了後に小グループに分けた研修会を実施する。また、すべての教員が単元において1回はALに取り組む。</p> <p>②編成基準の変更内容を鑑み、専門教科科目の教育内容や単位数を再度確認する。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目4における「4かなり当てはまる」の回答率が3割以上となったか。</p> <p>②既存の専門教科科目の教育内容及び単位数を適切に評価できたか。</p>	<p>①前期の評価は、34.3%、後期の評価は38.2%であった。</p> <p>②既存の専門教科科目の教育内容及び単位数を精査し、平成30年度の教育課程編成に向けて学校設定科目の廃止や単位数の見直しを行った。</p>	<p>①水産の見方、考え方を働かせた、実践的・体験的な学習活動を通じて生徒の「深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善について一層の取組と工夫が必要である。</p> <p>②学校設定科目の精選と「水産デュアルシステム」の履修者増加に向けた弾力的な教育課程編成と土壌作り、生徒や保護者への一層の働きかけが必要である。</p>	<p>③生徒による授業評価が年々上昇していることは、評価できる。今後は、アクティブラーニングを深い学びにつなげていくことが必要である。</p> <p>④デュアルシステムは、最初の開拓が大変であるが、実践できれば、学校・生徒・企業の宝になる。今後も実施に向けて取り組むことが必要である。</p>	<p>⑤多くの授業でアクティブラーニングの取り組みが進んでいるが、生徒の「深い学び」の実現に向けた授業改善については一層の工夫が必要である。</p> <p>⑥学校設定科目を精選するなど、平成30年度の教育課程編成に向けた取り組みを推進したが、新しく設定した「水産デュアルシステム」については履修希望者が少なく、最終的に閉講科目となった。</p>	<p>⑦アクティブラーニングを深い学びにつなげるための研究授業や研修会を定期的実施する。</p> <p>⑧「水産デュアルシステム」の履修者を増加させるため、弾力的な教育課程編成と土壌作り、年次や進路支援グループと連携を密にした履修指導を行う。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①行事・部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>①行事、委員会、部活動の活性化を図る。</p> <p>②日常的に生徒の行動変化に気を配り、きめ細やかな対応を図る。</p>	<p>①生徒会役員を中心とした生徒活動全般を教職員全員でサポートする。</p> <p>②生徒の変化に対する職員の情報共有化と、支援体制を構築する。</p>	<p>①生徒活動全般をサポートできていたか。</p> <p>②生徒の変化に対する情報共有と支援体制が構築され、円滑に進められていたか。</p>	<p>①海洋祭をはじめとする校内行事を活性化することができた。</p> <p>②年間を通じSCと連携し、メンタル面のケアを図ることができた。また、各年次と生徒支援グループが協力しながら生徒の見守りを継続することができた。</p>	<p>①生徒会執行部を中心とした委員会活動活性化がさらなる課題となっている。部活動加入率の増加に向けた具体的方策の模索。</p> <p>②教育相談体制が充実してきている。今後も有効な活用を継続していく。</p>	<p>③海洋祭などは本校の魅力や教育内容を十分に外部にアピールできていた。部活動の活性化は学校の魅力アップにつながる。加入率の増加を含め、活性化に向けた取組を推進すべきである。</p> <p>④多様な生徒に対して、ケース会議の実施やスクールカウンセラーとの連携、協力体制の構築など、教育相談体制が充実していることは評価できる。</p>	<p>⑤生徒会役員を中心に生徒活動全般を教職員全員でサポートする体制は構築されてきたが、部活動の加入率は今年度の入学生については、前年度より減少した。</p> <p>⑥多様な生徒に対して、年次団や生徒支援グループが協力しながら情報を共有し、生徒の支援を行うことができた。スクールカウンセラーやソーシャルワーカーとも連携できたが、教育相談体制の更なる充実が必要である。</p>	<p>⑦活動加入率の増加に向けて、新入生に対する部活動紹介の充実や仮入部期間の設定など、具体的な方策を検討、実施する。</p> <p>⑧支援が必要な生徒に対する迅速な対応が可能となる教育相談体制を構築する。</p>

3	進路指導・支援	生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らのキャリア発達を意識できるよう履修ガイダンス機能の一層の充実を図る。 生徒の専門に対する意識を深化し、進路を考える機会とする専門に関するインターンシップの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導や進路支援と履修指導が有機的につながるよう各年次と連携を密にした履修指導を行う。 インターンシップの参加生徒を増やすために、生徒の専門に直結する業種の開拓を目指し、コンソーシアムサポーター(以下 CS)を有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導によって選択した進路、系列についてのアンケートで肯定的な意見が7割を超えたか。 専門に関するインターンシップの新規受入れ先が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1,2年次生および保護者ガイダンス、進路希望別ガイダンス等を実施し、早い段階でキャリア意識を定着させることができた。 漁業へ就職を希望する生徒に対する漁業体験やフェリーでのインターンシップを実施したが、昨年度に比べ専門に関するインターンシップは減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次の実態に合わせた進路支援活動・学校生活支援体制を充実していく。また、次の年次に引き継ぐことのできる本校に合った進路意識向上プログラムの検討。 幹事校として、地区合同インターンシップを調整、実施した関係で、本校独自のインターンシップが手薄になった。来年度は、年次団、進路支援グループの協力体制を構築し、専門に関するインターンシップを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率も向上し、就職率も高くなっていることは評価できる。専攻科への進学率も高くなっているが、高度な専門的資格取得に向けた取り組みを今後も推進していくことが必要である。 インターンシップの参加生徒が減少したのは残念である。参加者を増やすための取り組みに工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発グループと年次団が連携して充実した履修指導を行うことができたが、選択した進路、系列についてのアンケートが実施されず、履修指導と進路選択が有機的につながっているか検証することが出来なかった。 漁業や船舶運航に関するインターンシップは充実してきたが、他の専門分野におけるインターンシップは参加者を増やす取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路支援グループと研究開発グループが協働して、年次団と連携しながら履修指導、系列選択指導に取り組む。 各専門系列が専門に関するインターンシップの新規受入れ先を開拓し、年次団、進路支援グループが協力しながら、生徒の参加を促進させる。
4	地域等との協働	<p>①教職員一人ひとりが創意工夫し学校の魅力を開発・発信し、学習センター機能を充実・発展させる。</p> <p>②地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>①地域社会に積極的に情報を発信し、水産海洋の専門高校としての本校の特色ある教育活動についての理解を深めながら連携事業を推進していく。</p> <p>②地域企業等との取組を進め、より地域から信頼される学校づくりをすすめる。</p>	<p>①ホームページの内容をさらに充実させていくとともに、学校案内やパンフレット、ポスターなどのデザインや掲載内容の充実を図り、より有効な配付先やタイミングなども検討し実施していく。</p> <p>②地域産業界との新商品の共同開発や実習製品の販売などをめざす。</p>	<p>①ホームページへのアクセス数が増えたか。また、各種作成物の内容と配付先、配付数の実績が上がったか。</p> <p>②生徒の自己肯定感(アンケート)を高める取組ができたか。</p>	<p>①学校ホームページを充実させ、更新回数を増やし、最新情報の提供に努め本校の特色を発信した。 また、学校説明会や体験入学日程等を掲載したポスターやカレンダーを作成し、近隣中学に配布し受検生へ直接周知することに努めた。</p> <p>②三浦市、横須賀市と連携協定を締結し、地域企業との新商品の共同開発や実習製品の販売に向けた取り組みを行った。</p>	<p>①本校の専門高校としての教育内容だけでなく、さまざまな魅力の理解を深めるため、学校体験プログラムを更に充実させ、学校案内リーフレットも学校生活の様子がわかる内容に検討していく。</p> <p>②地域のニーズに対応できるよう、関係事業所・団体との協力体制を構築、充実させていく。</p>	<p>①学校の魅力や最新の情報を外部に発信するため、更新回数をもっと増やすなど、学校ホームページを充実させることが必要である。</p> <p>②三浦市、横須賀市との連携協定など地域との協働を推進していることは評価できる。今後は、地域ブランドの開発や生産物販売などの取り組みを推進することが必要である。</p>	<p>①学校ホームページを一新し、本校の魅力や最新情報を積極的に発信したが、更新回数については、満足いく回数には至らなかった。</p> <p>②三浦市、横須賀市との連携協定を締結するなど地域との協働を推進することができた。今後は、本校の教育活動と結びつけながら具体的な取り組みを充実させていくことが必要である。</p>	<p>①学校行事や教育活動などの記事が迅速にホームページにアップ出来る体制を早急につくる。</p> <p>②地域産業界と新商品開発に取り組み、校内、校外での実習製品販売を促進する。</p>
5	学校管理 学校運営	すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。	神奈川県教育課題について教職員の意識を高める取組を進める。	前期及び後期にコミュニティ・スクールに関する研修会を開催する。	研修会の出席率及び理解度(アンケート)を高めることができたか。	研修会の出席率は前期87.5%であった。後期は研修会が設定できず、資料配布と簡単な説明に留まった。	本校らしいコミュニティ・スクールの実現に向けて、職員の理解度や意識を高めるための研修会を充実させていく。	神奈川県らしいコミュニティ・スクールの実現に向けた今後の取り組みを推進することが必要である。	研修会により、コミュニティ・スクールの実現に向けた職員への意識啓発を図ることはできたが、職員の理解度を高めるための研修会を開催することが出来なかった。	適切な開催時期を検討し、先進校から講師を招くなど、外部講師を活用した研修会を実施する。